

2025年1月5日 2025年新年主日礼拝 聖餐礼拝 降誕節 第2主日

説教題：「**良い知らせを伝える**」

聖書箇所：イザヤ書40章1-11節（1123頁）、ローマの信徒への手紙1章16-17節（273頁）

説教者：秀島牧師 招詞：讚美歌93-1-24 交読詩編：詩編100編1-5節（109頁）

讚美歌：83/492（み神をたたえる心こそは）/278（暗き闇に星光り）/78（わが主よ、ここに集い）/27

「今週の聖句」〔慰めよ、わたしの民を慰めよと、あなたたちの神は言われる。〕（イザヤ書40：1）

「牧師室の窓」 「新たなる 四半世紀を迎えたる 二十一世紀を 平和にせねば」

「昭和より 百年となる節目こそ 平和を誓う 次世代のために」

(1)皆様、おはようございます。新年明けましておめでとうございます。お元気で新しい年をお迎えになられましたでしょうか。昨年の1年間を主なる神が皆様をお守りになられましたことに感謝をいたします。

(2)本日は新年礼拝としまして、イザヤ書40章の御言葉を味わって参りましょう。前にも申し上げましたが、イザヤ書は全部で66章あります。今から約2750年前から約200年間に、3人のイザヤがおりました。国内の政治的混乱や外国との戦争により、平穏な生活が奪われた時代が続きました。絶望の状態から、平和への望みが生まれてくるのです。旧約聖書の根底には平和への希望がごく細い糸のように繋がり途絶えることがありませんでした。旧約聖書を読むとは、聖書の行間にある、隙間隙間にある神の声を発見することにあります。「発見する」と申し上げましたが、正しくは、「啓示(けいじ)を体験する」です。先程司式者が朗読して頂きました新約聖書ローマの信徒への手紙1章17節には、〔(1:17)福音には、神の義が啓示されています…〕と書かれています。「啓示」とは、神自らが神の真理を、神の愛を人間に表わす、示されることです。人間の努力によって理解できるものではありません。だからと言って、努力する必要はないというわけではありません。

(3)本日のイザヤ書第40章は55章までの部分が第2イザヤと区分されている箇所のスタートの箇所です。ダビデ王が築き上げた王国は2代目のソロモン王の時代に繁栄を極めますが、3代目には、北イスラエル王国と南ユダ王国に分裂してしまいます。隣国との勢力環境の中で、北イスラエル王国は滅亡し、百数十年後には南ユダ王国がバビロニア帝国によって滅ぼされました。南ユダ王国の支配階級の人々は、千キロ以上も離れた敵国の首都であるバビロンに強制移住させられました。その地で結果的に約50年間を過ごすこととなります。これを「バビロン捕囚」と呼び、人々は神の裁きと理解せざるを得なかったのです。苦悩の歳月を過ごしていきました。何故、神から油を注がれた、神から愛された、ダビデ王の王国が減びてしまったのか。そのことを思うことから、聖書は(旧約聖書のことですが、聖書は)徐々に作られていきました。

国際情勢の中で、平和は維持されますが、もろくも崩れ去っても行きます。平和を望むには、平和を実現・維持するためには継続的な努力が不可欠です。昨年秋にノーベル平和賞を受賞しました「日本原水爆被害者団体協議会」が長い年月でのたゆまぬ行動が平和を求める人々の心に響いたことと思います。併し、今後の運営については、会員の人々が高齢化しており、会の運動が懸念されています。私は思うのですが、重要なことは、年齢に係わらず、英語を学習し英語で伝えることとであると思います。次に、青年たちを国連などの国際機関への就職を促すために奨学資金を創設することです。平和は口で唱えて実現するわけではなく、棚ぼた式に与えられるものでもないことが聖書から理解できます。

(4)第2イザヤはこのバビロン捕囚の末期に神の言葉を伝える預言者として活動しました。近隣

の国際情勢が変化し、バビロニア帝国はアッシリア帝国に押されてきます。すると、強制移住をさせられてきたユダヤに人々の中に、捕囚から解放されるのではないかとの希望が、淡い希望ですが、湧いてきました。第2イザヤは、捕囚からの解放を、神の言葉として人々に伝えていったのです。第2イザヤの語り出しの言葉です。40章の1節2節を読みますのでお聞き下さい。

〔(イザヤ書40:1)慰めよ、わたしの民を慰めよと/あなたたちの神は言われる。(40:2)エルサレムの心に語りかけ/彼女に呼びかけよ/苦役の時は今や満ち、彼女の咎は償われた、と。罪のすべてに倍する報いを/主の御手から受けた、と。〕

皆様はこの1節2節を耳で聞かれてどの様に感じられたでしょうか。この言葉を話しているのは第2イザヤという人、人間ですが、耳に聞こえた言葉は脳に伝わり、心で受け止める訳です。

すると、人間の声ではなくなり、7節9節10節に書かれているよう「神」の声として理解されるのです。皆様にはその様な体験はありませんでしょうか。苦しい時、つらい時が連続している時に、絶え間のない苦痛が継続している時に、人間の耳は、人間の脳は慰めの言葉に飢えているのです。1節で「慰めよ」と呼び掛けられた耳に、2節では具体的な事象として、事柄として伝えられてきます。それは「苦役の時は今や満ち」「咎は償われた」「罪のすべてに倍する報いを」主の御手から受けた」、これらの言葉によって、心のつかえが取り除かれるのです。

(5)1節に書かれている「慰めよ」という言葉がこの11節までの中で、ある言葉に姿を変えて表わされています。それは何でしょうか。もう一度申し上げますと、「慰めよ」という言葉がこの11節までの中で、ある言葉に姿を変えて表わされています。それは何でしょうか。それは9節に書かれている「良い知らせ」ではないでしょうか。1節では「慰めよ」が2回出てくるのと同様に、9節には「良い知らせ」が2回出てきます。

では、逆に考えてみましょう。「良い知らせ」とは何でありましょうか。皆様方にとって、「良い知らせ」とは何でありましょうか。私たちはこの世の中に生きているわけですから、自分にとって有利な、何らかの利益をもたらす事柄が「良い知らせ」であると判断いたします。

併し、利益をもたらす事柄が「良い知らせ」の全てではありません。「良い知らせ」とは人間が生きて行く活力を与えられることではないでしょうか。物質的な利益を遥かに超えた「良い知らせ」とは、「生きる原動力」を与えられることでもあります。それが「慰められる」ことに他なりません。何故ならば、人間の寿命には限度があるからです。従って、「慰められる」とは、私は思うのですが、一種のips細胞の様なもので、病気や怪我で失われた身体を再生させる機能を持つ行動だと思ふのです。2012年ノーベル生理学・医学賞を受賞された山中伸弥さんの研究分野ですね。人間は「慰められる」ことによって、「心が回復」し、生きる勇気を与えられるのではないのでしょうか。

(6)6節7節を見てみましょう。〔(40:6)呼びかけよ、と声は言う。わたしは言う、何と呼びかけたらよいのか、と。肉なる者は皆、草に等しい。永らえても、すべては野の花のようなもの。/(40:7)草は枯れ、花はしぼむ。主の風が吹きつけたのだ。この民は草に等しい。〕この6節7

節は一言で言えば、人間には寿命がある、と言っているのです。その限られた寿命を持つ人間は悲しい存在ではないと、語っているのが、8節です。見てみましょう。ここには聖書に特有な逆転の発想が記されています。〔(40:8)草は枯れ、花はしぼむが/わたしたちの神の言葉はとこしえに立つ。〕8節の前半の箇所「草は枯れ、花はしぼむ」と当然の事実を、誰もが納得する事実を述べています。併し、後半ではその事実をひっくり返す全く新しい状態を示しているのです。

「とこしえに立つ」とは永遠に存在すると言うことです。新約聖書のヨハネの手紙Ⅰ 2章17節(新約聖書442ページ)に〔(2:17)…神の御心を行う人は永遠に生き続けます。〕と書かれています。

命に限りのある人間が永遠に生きる…そんなはずがないことが…人間に生きる勇気を与えるので
す。

元に戻り、きょうの聖書箇所8節は、「良い知らせ」が「神の言葉」であることを証明したの
みならず、「とこしえに」存在すると繋がってきたのです。聖書を紐解くことが、単なる言葉遊
びではなくなってしまいました。「とこしえに立つ」とは、歴史の中を貫くと言うことです。

その「神の言葉」は11節に書かれている様に〔(40:11)主は羊飼いとして群れを養い、御腕をもつ
て集め…〕と書かれています。そのことが、きょうのもう一つの聖書箇所、新約聖書ローマの信
徒への手紙に書かれています。〔(ロマ書1:16)わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人を
はじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。〕ここには「福音
は…信じる者すべてに救いをもたらす神の力」と書かれています。「良い知らせ」が地域や民族
の違いに拘わらず広がることが示されているのです。つまり、「慰め」は私たち一人ひとりに与
えられることをパウロは語っています。そのことを私たちは感謝して受けとめようではありません
か。

今年2025年を迎えました。21世紀の第2四半期(第2ラウンド)になりました。この第2ラウンド
が2050年以降へ、そして、22世紀へと繋がっていきます。私たちはいつまで存命できるかは別と
して、精一杯生きて、「良い知らせを…伝える」その様な日々を過ごしてみようではありません
か。

・・・お祈りします。

主なるキリストの神様。私たちは主の降誕・お誕生を迎えし、新しい一年を始める新年礼拝を行
なっています。私たちは、聖書の御言葉によって養われていることに感謝いたします。御言葉に
耳を傾け、悔い改め、神のもとに立ち帰り、日々を過ごして参りたいと願っています。

いま現実に戦争が起きている地に住む人々に、自然災害で困難の中にある人々に、生活の中で
困っている人々に、平安と慰めがありますように。教会に連なる一人ひとりに、地域で生活して
いる、働いている一人ひとりに、み恵みがありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

〔新共同訳(イザヤ書40:1)慰めよ、わたしの民を慰めよと／あなたたちの神は言われる。/(40:2)
エルサレムの心に語りかけ／彼女に呼びかけよ／苦役の時は今や満ち、彼女の咎は償われた、
と。罪のすべてに倍する報いを／主の御手から受けた、と。/(40:3)呼びかける声がある。主のため
に、荒れ野に道を備え／わたしたちの神のために、荒れ地に広い道を通せ。/(40:4)谷はすべて
身を起こし、山と丘は身を低くせよ。険しい道は平らに、狭い道は広い谷となれ。/(40:5)主の栄
光がこうして現れるのを／肉なる者は共に見る。主の口がこう宣言される。/(40:6)呼びかけよ、
と声は言う。わたしは言う、何と呼びかけたらよいのか、と。肉なる者は皆、草に等しい。永ら
えても、すべては野の花のようなもの。/(40:7)草は枯れ、花はしぼむ。主の風が吹きつけたのだ。
この民は草に等しい。/(40:8)草は枯れ、花はしぼむが／わたしたちの神の言葉はとこしえに立つ。
/(40:9)高い山に登れ／良い知らせをシオンに伝える者よ。力を振るって声をあげよ／良い知らせ
をエルサレムに伝える者よ。声をあげよ、恐れるな／ユダの町々に告げよ。見よ、あなたたちの
神/(40:10)見よ、主なる神。彼は力を帯びて来られ／御腕をもって統治される。見よ、主のかち
得られたものは御もとに従い／主の働きの実りは御前を進む。/(40:11)主は羊飼いとして群れを
養い、御腕をもって集め／小羊をふところに抱き、その母を導いて行かれる。〕

〔新共同訳(ロマ書1:16) わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人も、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。/(1:17)福音には、神の義が啓示されていますが、それは、初めから終わりまで信仰を通して実現されるのです。「正しい者は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。〕